

校長室から ひがしなら通心

(H29年度) 茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 30

平成29年10月30日(月)発行

ならぬことは、ならぬものです

みなさんは、「あいづっこ宣言」というものを知っていますか？平成25年のNHK大河ドラマ「八重の桜」の舞台だった会津、現在の福島県会津若松市が、平成14年に策定した宣言です。その内容は、以下の通りです。

1. 人をいたわります。
 - ・お年寄りや弱い人をもかけがえのない人間として大切に思い、いたわる
 - ・じぶんをはじめ、命あるものをいつくしむ
 - ・みんなのためにボランティア活動を進んでやる
 2. ありがとう、ごめんなさいを言います。
 - ・「おかげさま」の気持ちをもつ
 - ・過ちは素直に認め、謝る気持ちを持つ
 - ・礼儀について心がけ、言葉づかいを正す
 3. がまんをします。
 - ・甘えをおさえ、わがママをしない
 - ・失敗体験や困難体験を大切にする
 - ・最後まで投げ出さずに本気で取り組む
 4. 卑怯(ひきょう)なふるまいをしません。
 - ・自分さえよければという考えで行動しない
 - ・うそをついたり、人の嫌がることをしない
 - ・人として恥じない正々堂々とした行いをする
 5. 会津を誇り、年上を敬(うやま)います。
 - ・自然体験・社会体験を通して会津についてよく知る
 - ・会津の歴史や文化を知り、先人、親そして年上を敬う
 - ・生まれ育った地を誇り、愛する気持ちを持つ
 6. 夢に向かってがんばります。
 - ・目標実現に向けて、くじけず努力する
 - ・みんなのために、持てる力を使う
 - ・よりよい会津をつくる意欲を持つ
- ◎ やってはならぬ、やらねばならぬ、ならぬことは、ならぬものです。
- ・悪い誘惑に負けない強い心を持つ
 - ・やりたくなくても、やらねばならないことはちゃんとやる
 - ・自分勝手はやめ、社会生活のルールを守る

このように、人として大切にしていきたいことが端的に表現されています。

江戸時代に会津藩では、藩校の日新館(にっしんかん)に入学する前の6歳から9歳までの藩士の子弟は、10人前後で「什(じゅう)」と呼ばれる集団をつくっていました。子どもたちは毎日、当番の家に集まり、いちばん年上の子が進行役になって「什の掟(什の誓い)」と言われた七つのきまりに背かなかったかどうか反省会を持っていました。そして、会の最後にみんなで、きまりは守らなければいけないという思いを込めて「ならぬことはならぬものです」と唱和していました。

1. 一、年長者の言うことには背(そむ)いてはなりません
 2. 一、年長者にはお辞儀(じぎ)をしなければなりません
 3. 一、うそを言うことはなりません
 4. 一、ひきょうな振る舞いをしてはなりません
 5. 一、弱い者をいじめてはなりません
 6. 一、戸外(こがい)で物を食べてはなりません
 7. 一、戸外で婦人(母、姉、妹も)と言葉を交えてはなりません
- 6番目と7番目のことは、今の日本では許されることですが、他のことは全部私たちにとっても大切なことなのです。

「ならぬことは、ならぬものです」一 守るべきことは、きちんと守らなければいけない、このことを私たちは学ばなければいけないと思います。たとえば、スーパーやデパートで、幼い子がお母さんにいけませんと言われて、ぐずって床に寝そべりながら「買って、買って」と大泣きをしている姿を時々見かけます。お母さんには理由や考えがあって、ダメですと言ったのだと思います。なので、言うことを聞きなさいというわけです。

嘘や卑怯な行動や弱い者いじめも許されません。人間としてよくないことだからです。ルールを破ることもダメです。世の中は、大勢が仲良く生きるためにルールや約束が必要だからです。よくないことはよくない、いけないことはいけないのです。

私たちが守らなければならない約束やルールはたくさんあります。たとえば、交通安全の規則、学校生活のきまり、犯罪に関する法律などがそうです。さらに、きまりではないけれど、友だち関係やご近所の方とのつき合いなどでのマナーなどもあります。友だちを悲しませたり、近所のお宅に迷惑をかけたりすることなどは、人間として差し控えなければいけないことです。

「ならぬことはならぬ」という強い心を持てる人になってほしいと願っています。

